

組合に相談しよう

不払い相談、融資・税金相談、教育資金、サラ金、生活保護、社保未加入問題…

練馬支部 03-3825-5522



購読料は組合費に含まれています。

定価三十円

発行所
東京土建一般労働組合
城北ブロック会議
東京都豊島区西池袋 5-22-15
板橋 (3963) 5325
※練馬 (3825) 5522
豊島 (3986) 2471
北 (3902) 7121
発行人 代表者 川合 正人
発行日1日、9日、17日、25日

「仲間づくり・人づくり」後継者発掘に重点 秋の拡大・支部目標209人

要求実現に向け、もっともっと仲間を

分会	1/1現勢	9/1現勢	秋の月間目標
北練馬	151	150	5
田柄	283	286	10
練馬	117	114	4
桜台	259	252	9
豊玉	140	134	5
春日	260	252	9
高松	177	171	6
貫井	179	168	6
土支田	285	277	10
南田中	138	133	5
大泉東	135	129	5
学園	250	251	9
西大泉	204	203	7
泉	176	156	6
石神井台	200	197	7
上石神井	160	159	6
旭町光が丘	200	200	7
北事業所	723	737	25
石神井	117	114	4
谷原台	176	175	6
関町	186	187	7
新大泉	95	87	3
早宮	188	178	7
中村	232	227	8
富士見台	208	187	7
新豊玉	136	128	5
北大泉	98	92	3
南事業所	464	471	16
練馬支部全体	5951	5838	209

ワン・チーム

「二人が一人を拡大しよう」。1959年9月6日、東京土建練馬支部の結成大会で出席者がこの氣勢を上げました。組合員を増やす「拡大運動」は絶えることなく続けられ、当初108人だった仲間が今では5838人（2026年9月1日現在）に。区内最大の労働組合に発展しました。

秋の拡大月間（10月30日まで）が開幕。月間の支部目標は209人です。現在、練馬支部会館の随所に「ONE TEAM（ワン・チーム）」で組織を強く、大きく」と掲示。秋の月間の意気込みを示しています。

求む 後継者層

8月27日に小番徹・本



支部出陣式で拡大目標達成を祈願し、だるまの片目に墨を入れる伊藤慶一郎執行委員長（右）ら支部役員

部専従常任待遇を迎えて「役員学習&支部出陣式」を開き、支部と分会の役員らで組織拡大と強化の大行動中、群会議を欠席

歴史的転換点

他の分会もこの月間、いや、夏の日常拡大（6〜8月）、いやいや、その前から組合総合共済やの東京土建国保、労災などの「メリット」を伝えており、加入の相談や申し込みの連絡が支部事務所

千葉豪雨被災者の 東京土建国保料免除制度

千葉県は8月、記録的豪雨に襲われました。国が災害救助法を適用したこと、東京土建国保組合は同県の千葉、市川、船橋、館山、松戸、茂原、佐倉、東金、習志野、柏、市原、八千代、我孫子、鎌ヶ谷、四街道、八街、印西、白井、大網白里、白子、長柄、富里、山武、酒々井、九十九里の25市町に居住（8月13日現在）し、「半壊（床上1メートル未満の浸水）」以上の被害を受けた組合員

加入の秘策？

1人ではどうしても考え、動くことに限界が。これが2人なら、3人なら…。多ければ多いほど可能性が広がります。未加入者の大半は「メリット」を求めています。私たちがさまざまな要求の実現に向け、もっとも仲間が必要。秋の月間最終日（10月30日）の夜、支部会館で「拡大打ち上げ式」を開催。その前に組合加入1年未満の新加入者を対象に「秋の組合説明会」を予定しています。

ねりほ大根



友人に誘われて富山県利賀村を訪ねた。20年前に周辺町村と合併、南砺市の一部となったが、今でもその村名が認められている。人口400人の山あいの地は「演劇の聖地」として知られ、中でも劇団SCOT（スコット）による祭典「サマーシーズン」は毎年、国内外のファンでにぎわう▼仕掛け人は同劇団の主宰で演出家の鈴木忠志さん（87）。1960年代の小劇場運動を皮切りに、その独創性あふれる活動は海外でも注目される。演劇界の仙人「が拠点を利用に移し、今年でちょうど50年▼村内の野外劇場で仙人が手掛けた舞台「世界の果てからこんにちは」を観劇した。あらずじに「ニッポンジン」の心象の歴史的変遷」と書かれていたが、今でもちんぷんかんぷん。劇中に何十発も打ち上げられた花火、迫り来る山、照明に引き寄せられた虫、舞台を食いつくように見る約7000人の観客いずれもが俳優と共に舞台上で「踊らされていた」と思えてならない▼翌日、仙人と問答を繰り返した。なぜ利賀で、これからの日本は…。返されるたびに「希望」の2文字を込めていた。（今

「検討を進めてまいります」

練馬区 公契約条例

吉田区長、議会で正式表明

適正な賃金支払いを義務付け

「コウケイヤクジョウレイ」。組合の中で一度は聞いたたり、目に留まつたりしたかもしれないが、そもそもこれは何か。

練馬支部発行『群の仲間
8月号でスポーツにたと
えるなら「注文を出した
側、受けた側はいずれも
対等な立場で同じルール

の費用が削られており、「国や自治体が想定した賃金を支払われていない」と深刻な問題が起きています。もっと言えば税金が正しく使われていません。

区議会で所信表明を行
う吉田区長（練馬区ホ
ームページから）



の下、フェアプレーで売り組もう」と解説していただきました。国や都道府県、市区町村が発注する公共工事、施設の管理・運営窓口業務は住民から集めた税金で賄われている。その発注額は公共工事設計労務単価などをベースに算出。人件費も当然含まれますが、実際に激しい価格競争の中で

建設業は長年「重層下請け構造」により下位業者・一人親方まで正当な賃金・報酬が行き渡らず、中には各都道府県の最低賃金すれすれの状態も。公契約条例は「計算に入れた人件費を途中で削らず、働く人たちに適正な賃金として直接支払いましょう」と義務付けています。

「公共サービスは、それを担う人材によって支えられています。公契約条例を制定し、区が発注する契約の労働報酬下限額を設けるなど、適正な労働条件の確保を通じて、公共サービスの質の向上と地域経済の持続的発展を目指してまいります。制定に向け、外部有識者等による検討組織を設置し、具体的な検討に着手します。事業者や労働者の皆様をはじめ、幅広い関係者のご意見を丁寧に伺いながら、練馬区の実情に即した実効性のある条例となるよう検討を進めてまいります」（練馬区ホームページから）。吉田健一区長は9月3日の区議会でこう述べました。

練馬支部は初めて「公契約学習会」に取り組んだ2003年以降、実に四半世紀にわたりこの条例の制定を求めてきました。13年に首都圏建設産業ユニオン練馬支部と共に練馬建設協議会を結成。一段とギアを上げました。この間区議会の全会派と懇談したり、区に建設業の実情を報告したりと働き掛け、ようやく「悲願」が実りそうです。



“運動の原点、公契約条例学習会（2003年）”

四半世紀にわたり訴え続け やっと“スタート”地点に

民間だけ、建設だけではない

「そうは言っても、こども同じように賃金を出さなければ人が集まらない」

縛り、民間に關係がないのでは」。いやいや、国や自治体が率先して基準を示すことにより「民間定済みの自治体で民間の仕事を請け負った仲間は

「仕事に見合った賃金が払われた」。地域全体で「賃金・単価引き上げの波」をつくれます。

公契約条例の恩恵を受けるのは、建設業だけではなく、運輸交通、保健衛生など各行

政サービスを支援する業種は数知れず。働く人が適正な賃金を受け取れなかったら、当然モチベーションが下がります。ですから、公契約条例を絵に描いて、区議会や関係者の間で話し合っていく必要がある。これは「幅広の関係者のご意見や区議会の方針を注視しながら進める」と述べている通り、はもうしばらく待ちましよう。

練馬支部は吉田区長の公契約条例検討着手表明を受け、伊藤慶一郎執行委員長が談話を発表しました。条例の解説を添えて、現在支部ホームページ（コード）で公開。ぜひご覧ください。



8～9月の区役所周辺早朝宣伝行動。
伊藤執行委員長⑤はじめ、支部役員も
マイクを握り、条例の必要性を訴えた



ーションが上がりませ
れたら、その代償を払う
のは住民です。

一変させたのは一人ひとりだ

にもかかわらず、これ

「ダンピング（不当販売）受注の防止や、指定管理者の労働環境への取り組みは条例によらずとも実施している」「労働条件は事業者の責任で整備されるべき」との理由で条例の制定に否定的でした。潮目が変わったのは、やはり区長の交代です。

条例づくりに意欲を見せる人がリーダーに。この好機を逃してはならないと、来年度の区政の方向を話し合う第三回定例会（9月3日開会）の前、区議や区職員をはじめ、区民に公契約条例への理解を深めてもらおうと区役所周辺の早朝宣伝行動（8月26日～9月2日）

26年4月の区長選で区政刷新を訴え、公契約条例に前向きな吉田健一さんが初当選。この選挙を巡っては練馬支部でも「あちこちで疑問、懸念…練馬区政」「現職不出馬、公契約条例制定のチャンス」（いずれも小紙から）などと仲間や家族の間で区政への関心を高めていた。

絵に描いた餅としないために

ただ、吉田区長の表明は、「ゴール」ではありません。「検討組織を設置」「幅広い関係者のご意見を丁寧に向ひながら」と述べている通り、これから「スタート」です。公契約条例を絵に描いた餅とせず、真にその効果を発揮させるためには今後検討組織の議論や区、区議会の動向を注視しなければなりません。歓喜に酔いしれるのもうしばらく待ちましょう。

大泉学園駅前の宣伝行動（2003年）



練馬支部は吉田区長の公契約条例検討着手表明を受け、伊藤慶一郎執行委員長が談話を発表しました。条例の解説を添えて、現在支部ホームページ（コード）で公開。ぜひご覧ください。

人類最初の被爆地で何を思う

原水禁世界大会・広島大会の報告

非核三原則の見直しに含み残す

高市首相

「核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず」の非核三原則を“堅持しつつ”? “堅持して

則を見直す可能性に含みを残したとみられる」と報じていました。

議を醸しました。『毎日新聞』8月6日付朝刊によれば、高市早苗首相は原爆犠牲者追悼式典や記者会見などで「『非核三原則』を『堅持している』と表明したものの、現状の事実関係を説明するにどまった」。曖昧にしたことで「年末に予定する国家安全保障戦略など安保関連3文書の改定に向けて、非核三原則

国内外できな臭さが漂っています。こうした中で行われた原水爆禁止2026年世界大会・広島大会（8月4～6日）。東京土建練馬支部の小松崎和弘さん（高松分会）、松尾浩道さん（西大泉分会）、佐藤稔さん（書記局）の3人が練馬代表団として派遣され、「人類最初の被爆地」の現在、過去、未来に思いを巡らせました。

人の力こそ核廃絶の“源泉”

高松分会 小松崎和弘さん

初めて原爆ドームを間近で見ました。最初に目に入ったのが81年前の瓦礫の山。そのまま残っている惨状に、原爆の怖さを感じつつよく全てでなくならなかったと非常に驚かされました。ドーム内を見れば、十字の補強がほとんどに巡っている

す。この81年の間、補強工事はたったの5回。改めて日本の技術力に感銘を受けました。忘れてはいけないシンボルとして、

これからも残してほしいです。

会場内で記念写真に納まる後列左から小松崎さん、松尾さん、佐藤さん

私は大会期間中、分科会などで核兵器を巡る情勢学習会のほか、平和記念公園とその近くの被爆地を方イドさんと一緒に回りました。原爆の本当の恐ろしさ、被爆者の一生消えぬトラウマ……。これまでの認識がらりと変わりま

毎年夏に一国の総理大

臣様が広島の地に降り立ちます。私も現総理大臣

に少し希望を持っていた。今までと違い、断固として「核兵器反対のため頑張ります」くらいは言っていただけかなと…。これまでも総理大臣のあいさつはひどかつ

ファンタ

たですが、今年は輪を掛けて最低でした。何のためには毎年広島、長崎で世界大会をやっているのか。

被爆者は来年8万人台になると予想され、生の声を聞けるのは本当にあと数年。加えて、日本は世界で唯一の被爆国なのに核兵器禁止条約に参加、署名もしていない。日本がもっと声を上げな

ければ何も変わりませ
ん。それをしない、させ
ない政府に怒りすら覚え
ます。現在、核廃絶を訴
える世界の方々のおかげ
で核禁条約参加国が10
0カ国に。一刻も早く日
本の参加を強く望み、ま
た世界中で核の怖さにお
びえず、平和な生活が送
れることを強く希望しま
す。

An aerial photograph showing the aftermath of the atomic bombing of Hiroshima. The city is almost entirely flattened, with a vast expanse of rubble and debris covering the ground. A few multi-story buildings remain standing, appearing as islands in a sea of destruction. A railway line runs vertically through the right side of the image, and a road or canal runs horizontally across the top. The overall scene is one of utter devastation.

原爆投下後の広島市内のジオラマ
(広島平和記念資料館で展示中)

算されることで、今年
は軍拡競争やA I（人
工知能）の影響が考慮
され85秒と最短だそう
です。

一方で、各国がこの
悲惨な事実を忘れない
よう、二度と核兵器が
使われないよう、小さ
な草の根活動が行われ
ています。若い世代と
どうつながっていくか
運動しています。

昨年は長崎、今年は
ビギニデー・広島と参
加しましたが、どこに
行っても核の正当性を
感じることはできません

ファンタジーの世界ではない

西大泉分会 松尾 浩道 さん

方の話を聞いたり、原爆ドームや平和記念資料館を訪れたりすると、命の軽さとあまりの無慈悲に体がビリビリしました。

も悲しまないハズです。
世界終末時計というもの
のもしりました。毎年計

たちに参加していただき、伝えていってほしいです。

39年越しの“因縁の地”広島

書記局 佐藤 稔さん

私は、書記になった1987年に初めて原水爆禁止世界大会・長崎大会に参加し、その後広島へ行った。今年、念願がかなった。長男の参加はあてていました。その後に行きたい気持ちを持ち続けた（長男の参加はあてていません）。

日に生まれ、さらに子どもと一緒に広島に行きたい気持ちが強くなりました。今年、念願がかなった。長男の参加はあてていました。その後に行きたい気持ちを持ち続けた（長男の参加はあてていません）。

和記念資料館や爆心地の近くの本川小学校（当時の校舎が一部残っている）などの資料は、これまで知らなかったことを

最終日に生で聞いた平和記念式典の高市早苗首相のあいさつは、何も理解していないし、同じ過ちを繰り返してはいけな

生まれた長男は、広島に
原爆が落とされた8月6
日、原爆ドームの中の床
上を歩いていた。多く学
び、核兵器の恐ろしさ
を改めて感じるもの

い気持ちは全く伝わって
きません。

爆心地から160メートルの原爆ドーム

は上空からの力で全て抜け落ちており、水を求めた被爆者が多く集まってきた川がすぐ目の前にあった。語り部の話は両親を生った戦災孤児の幼い時のつらい話で、ケガだけで

長引かせたくありませんが、まだまだ続く平和運動に今後も参加していきます。



